



6月には、小学校では運動会等の学校行事、中学校では中体連の大会があります。これらの行事に向けて、自分の学級の実態に合う具体的な取組を計画し、子どもたちの活躍の場をつくれるように支援しましょう。また、学級での生活や学習への適応が難しい子どもの姿がみられるようになる時期です。みんなが気持ちよく生活できる学級環境づくりとともに、困っている子どもへの個別の支援にも心がけましょう。

<小学校>

子どもと「遊ぶ」ことのよさと工夫

小学校低学年の子どもたちが運動遊びを行うことは、体力・運動能力向上という面で重要なことです。また、運動遊びをすることで前頭葉の働きが高まり、感情のコントロールが向上するという指摘があります。これにより「キレル」ことが抑制されるので、落ち着いた学級生活が送れます。

《運動遊びの例を2つ紹介します》

電車ごっこ

2本の線の上を、手と足で脱線しないように歩きます。



新聞紙パンチ



大人が新聞紙を広げて持ちます。子どもが新聞紙に向かってパンチをして新聞紙を破ります。人に向かってやってはいけないことも教えます。

「ぼくはね…」～突然話し出す児童への支援～

A児は、授業中、先生がみんなに説明しているのに、突然自分のことを大声で話し始めます。

そのつど注意しても、A児の欲求は満たされないため、よけいに話は続きます。また、学級全体の流れが途切れるので、A児を含め、他の児童も何をしたらよいのかが分からなくなります。

【支援の例】

- ・端的で分かりやすい説明を心がけましょう。
- ・その児童の注意の集中が向くような教材の提示方法を考えましょう。
- ・状況に応じて話せたり聞けたりした瞬間をのがさず、賞賛しましょう。

その児童のよい行動に対して、かわりを多くもつことが重要です。



<中学校>

学級壮行会、こんな工夫してみよう

いよいよ中体連の大会の時期がやってきました。大会直前にはどの中学校でも学校全体で壮行会を行うと思います。さらに、学級の友達にエールを送る学級単位の壮行会もしてみませんか。

工夫1

学級生徒会を機能させましょう

正副ルーム長や応援委員会等、学級生徒会が企画・運営をし、担任が必要な支援をしましょう。

工夫2

選手一人一人が決意表明

レギュラーではない選手も含めて、選手全員が大会に向けた決意を表明します。

工夫3

映像で士気を高めましょう

これまで取り組んできた様子や感動的なシーンをDVD等に納めておき、それを視聴します。

「うるせえ！」～突然キレル生徒への支援～

B生は、清掃中、仲間から「ちゃんと掃いて」と言われた途端、「うるせえ！」と怒鳴り声をあげ、ほうきを投げつけて出て行ってしまいました。

B生は、気持ちを言葉で伝えることや相手の気持ちを理解することが極端に苦手です。「困った生徒」として見るのではなく、「困っている生徒」として支援を考えましょう。

【支援の例】

生徒が落ち着いたら、どういう経過でそうなったのかを、図や絵に書いて一緒に整理してみましょう。その上でイライラしたときの対処法を相談してみましょう。

「この先生は分かってくれる！」信頼関係を築くことが、支援の第一歩です。

